

彫刻

応募点数	22点	招待作品	7点
入賞点数	7点	展示点数	29点
入選点数	15点	◎は移動展出品作品	

(総評) 今年は若い方々の出品もさらに増えて、傾向も大きさもバラエティに富んだ29点の展示となりました。

特に県の進める文化芸術次世代育成支援事業の一環である、テラコッタ講習会に参加された高校生諸君の作品が、一般出品として審査のうえ展示できたことは、県民の方の幅広い関心を高める上でも、非常に意義のあることであります。

出品者の抱いたテーマは、社会事象に感じること、生活のひとこまにふと感じること、人体の美しさの表現、宗教的心情など幅広く、それぞれ作者の心のうちが披露されているように思います。

彫刻の造形素材も少しずつ変化が見られ、木の表面処理を、絵画等の下地材であるモデリングペーストをうまく活用したのも出品されてきました。

審査は発想の独自性、技術の練磨、造形意図の明確さなどに目を向けて行いました。

(文責 山岡 弘迪)

知事賞 ◎

Q

こんだひろき 近田裕喜 (安来市)

作者はここ数年、黒御影石を素材に、抽象的な形を通して、ボリューム感のある美しい形を追求しておられます。今回は硬い石材の表面処理に苦労の跡が感じられますが、星のクレータのような表現は、見る人に宇宙を想像させてくれます。

(文責 山岡 弘迪)

金賞 ◎

われわれ^{われわれ}はどこから来てどこへ行くのか

すとうとよほる 周藤豊治 (松江市)

両手を大きく空に上げた鉄製の半具象の作品です。左足を一步踏出し、両手の指を広げ何かつかもうとしている、動きのある作品です。空を見上げる表情もユーモラスで、赤錆の渋い色調とあいまって、暖かく夢のある好感のもてる作品となっています。

(文責 山岡 弘迪)

銀賞 ◎

なつはな 夏の花

ほらひろおみ 原宏臣 (出雲市)

小品ですが迫力があります。指先の表現や足を大きく広げたポーズは、女性の若々しさと、緊張感が迫ってきます。塑像の出品が年々減少しているため、今後も続けて行って欲しいと思います。

(文責 山岡 弘迪)

銀賞 ④ 移 ^{しゅうかく} 収穫Ⅱ ^{たむら} 田村 さつき (広島県)

「収穫Ⅱ」の題名に作者の表現意図がよく表れています。実りの秋を思わせる容姿が、豊かにつくられ、粘土の低温焼成（テラコッタ）ならではの素朴で暖かい感じの作品です。 (文責 山岡 弘迪)

銅賞 ④ 移 ^{せかいいちめざ} 世界一を目指して ^{いわさきみつひこ} 岩崎 光彦 (安来市)

毎年、地元産の荒島石に取り組んでおられる作者は、今年も、島根県民の誇りである錦織圭選手への応援を、硬い石に表現することに挑まれました。社会的関心の事象を、うまく一つの岩石の塊に表現することに、成功されました。硬軟入りまじり、欠け易い荒島石を慎重に彫りあげた労作です。 (文責 山岡 弘迪)

銅賞 ④ 移 ^{あゆ} 歩み ^{いしだとみお} 石田 富士 (江津市)

木彫は素材の選択も大切な要素であり、直彫は熟練の技も必要です。柔らかそうな材料の特色をうまく生かして、若い女性を表現しています。制作過程では、初めに粘土で試作を作り、それから木彫りを進めた労作です。 (文責 山岡 弘迪)

銅賞 ④ 移 **f a m i l y Ⅱ** ^{おぞえのぼる} 尾添 昇 (出雲市)

作者は数年来、家族をモチーフにして造形しておられます。今回はプラスの量と、マイナスの量をとりこんだ構成もとり入れて、イメージを展開しておられるようです。有機的形態を追求する抽象彫刻のようにも見えますが、今一步整理や省略をすすめた方がよいように思われます。 (文責 山岡 弘迪)

入 選

題 名	氏 名	備 考
知恵虫	立 花 航 (松江市)	
若者	中 田 晶 子 (松江市)	
kの頭像	田 野 さつき (松江市)	
絆龍	松 本 良 秋 (松江市)	
④ 思い、想う。	佐々木 孝 (浜田市)	
④ 舞	日 下 悦 郎 (出雲市)	
祈り	稲 村 守 泰 (松江市)	
たゆたう	原 田 由美子 (出雲市)	

題名	氏名	備考
うみなり	曾田若菜 (出雲市)	
貝型植木鉢	渡邊理央 (松江市)	
貝のテラコッタ	加納陸巳 (松江市)	
少女像	園山美樹 (出雲市)	
人	寺井花音 (出雲市)	
ハツキガイ	三代葵 (出雲市)	
貝殻	吉木梨花子 (松江市)	

招待

題名	氏名	備考
よー君	荒木文夫 (松江市)	
⑩ twisted-1	山岡弘勉 (出雲市)	
⑩ 弥生の女	落合誠 (江津市)	
与幸多の娘	井上博 (松江市)	
⑩ 大根	佐藤信光 (安来市)	
黙想	伊藤眞美 (出雲市)	
⑩ 獲物	田中俊晞 (江津市)	